

< 越前市政報告 >

越前市長 奈良 俊幸

平成24年7月20日午後、越前市東部地域は1時間に96ミリもの記録的・局所的な豪雨に見舞われ、市内の味真野地区、粟田部地区、岡本地区の3,587世帯・約1万2,000人に避難準備情報を発令しました。

土砂崩れや土砂の流出、河川の氾濫等により、半壊・一部破損・床上浸水・床下浸水の建物被害が455棟も発生するなど、大きな被害を受けました。

特に被害の大きかった大滝町は、日本で有数の和紙産地であり、平成16年7月の福井豪雨に続き、今回の集中豪雨でも町内外の33の和紙製造業者が被災し、うち29事業者の設備等が被害を受けました。

越前市は20日午後4時2分に市災害対策本部を設置して以降、国や県、近隣市町、多くのボランティア等のご支援をいただきながら、全庁体制で災害対応に取り組むとともに、27日には西川知事に対し越前和紙の生産再開に対する支援、治山・治水対策の早急な実施、災害復旧事業への適切な指導・支援などを強く要請しました。

また、災害発生の翌日に開設した市災害ボランティアセンターでは、21日から29日までの9日間に市内外から延べ1,749人もボランティアを受け入れました。

応急的な活動に一定の目途が立った8月3日に市災害対策本部を廃止し、新たに市災害復旧支援会議を設置して、継続的に支援策を実施しています。

具体的には、被害を受けた河川、道路、学校等の応急復旧工事や県が新設した中小企業への無利子貸付事業に伴う保証料補給金等を平成24年度7月補正予算に計上するとともに、市に寄せられた市町や個人、団体等からの支援金を財源として、市独自の災害特別見舞金を8月補正予算に計上し、被災者に支給しました。

さらに、9月補正予算には被災した中小企業への一層の支援や農林業施設等の災害復旧、被災地の大滝町に貴乃花親方を迎えて開催する越前和紙の復興イベント等を盛り込みました。

福井県の悲願であった北陸新幹線の整備については、金沢・敦賀間の工事実施計画が6月29日に認可され、整備計画の決定から実に39年の歳月を経て、8月19日に起工式と建設促進大会が福井市で開かれました。

今後も県や沿線市町と連携して、敦賀までの一日も早い開業を国に働き掛けていくとともに、本市に設置される「南越駅」(仮称)は、県内4つの設置駅の中で唯一の新設駅となるため、中心市街地の活性化など総合的なまちづくりも考慮に入れ、「南越駅」(仮称)の計画的な整備に取り組んでまいります。

福井鉄道福武線の維持・活性化については、「北府駅」の改修竣工式が3月2

4日に行われました。

北府駅の駅舎は、大正13年に「西武生駅」として築造され、88年間にわたって沿線住民に利用されてきました。

平成22年春にはソフトバンクのCMの舞台となり、大きな注目を集めたことから、大正時代の風情あふれるレトロな駅舎をそのまま生かして、福井鉄道が国や県の支援を受け改修を行ったもので、国の登録有形文化財の指定を目指し、申請手続きを進めることになっています。

市では、北府駅をまちなか観光の拠点と位置付け、駅の構内に中心市街地へ観光客を呼び込むための総合案内看板を設置しました。

併せて、福井鉄道と協力して駅舎内にギャラリーを設け、福井鉄道の沿革や貴重な鉄道関連資料、俵万智さん（「越前市ふるさと大使」）が福武線を詠んだエッセイなどを展示しました。

平成20年度に160万人余であった福武線の利用者は、平成23年度には176万人余に増加しており、今後も引き続き福井鉄道や関係団体とともに、福武線の利用促進に努めてまいります。

市が推進しているコウノトリが舞う里づくりについては、昨年12月10日に待望のコウノトリのつがいが兵庫県豊岡市から本市に移送され、県との連携による市内での飼育・繁殖に向けた取組みが始まりました。

順調に産卵・孵化すれば、本市で生まれ育ったコウノトリがやがて放鳥され、市内に定着することが期待されています。

また、平成22年4月に初めて本市に飛来したコウノトリ「えっちゃん」が本年も3月に飛来し、これで3年連続の飛来となりました。

市では、昨年3月に策定した「市コウノトリが舞う里づくり構想」や本年3月に策定した「同実施計画」の着実な推進を図るとともに、コウノトリをシンボルに「生きものと共生する越前市」を実現するため、全国でコウノトリやトキなどの飼育・繁殖等に取り組む自治体に呼び掛け、10月13日に武生第五中学校を主会場に「2012コウノトリが舞う里づくり大作戦」を開催する準備を進めています。

なお、6月市議会でコウノトリが「越前市の鳥」に指定されたことを受け、日本郵政株式会社が7月23日の「ふみの日」に、「コウノトリ物語切手」を発行しました。

コウノトリをシンボルに推進している環境調和型農業や地産地消の取組みについては、県認証の特別栽培米の本年度の作付面積が513haに、環境や生きものに優しい冬期湛水の昨年度の実施面積も266haに拡大し、ともに県全体の約4割を占め、県内トップとなっています。

また、市内で生産される安全で安心な農産物の生産や消費の拡大を図るため、市内で生産される農産物及びその加工品を積極的に取り扱う市内の40店舗の飲食店等を「市地産地消推進の店」として3月に認定しました。

さらに、4月からは特別栽培米の使用を学校給食で始めました。

スポーツの振興については、アジア競技大会のフェンシング女子エペ団体の部で金メダル、同個人の部で銀メダルを獲得し、平成22年12月に本市初の市民栄誉賞を受賞した中野希望選手が本市出身者としては実に40年振りに、フェンシング女子エペ個人の部でロンドンオリンピックに出場を果たしました。

中野選手は7月30日に決戦に挑み、残念ながら2回戦で敗退しましたが、その戦いぶりは市民に大きな感動と希望を与えてくれました。

平成30年の福井国体では、フェンシングとソフトテニス、軟式野球、ソフトボールの4種目が本市で開催されることから、今後も福井国体に向けた施策の強化を図ってまいります。

文化の振興については、武生公会堂記念館において7月20日から9月2日まで開催された、本市出身のかこさとし氏(「越前市ふるさと大使」)の特別展「かこさとし ふるさとから広がる絵本の世界」の入場者が7,419人に上り、成功裏に閉幕しました。

引き続き、たけふ菊人形連携企画展として10月5日から11月4日には「橘曙覧と越前府中」を開催します。

また、11月22日から12月16日には本市出身の国際政治学者・若泉敬氏の生涯をたどり、その足跡を紹介する地域連携企画展「国際政治学者 若泉敬 孤独なる戦い」を開催する予定です。

なお、かこさとし氏の特別展に展示した資料や同氏に描いていただいた絵画等については今後、既存施設を活用して常設展示することにより、読書活動推進のシンボルにしてまいります。

この他、平成21年9月に民事再生法の適用を申請したものの断念し、平成22年3月に閉店した、本市で最大のショッピングセンター・シピィが2年2箇月の空白を経て、5月24日に店舗数44店で営業を再開しました。

総合衣料や飲食店などのテナントを新たに加え、9月28日にはグランドオープンを予定しています。

市では、シピィに再出店する小売店に対する補助金を平成24年度当初予算に計上し、新生シピィに支援を行ったところであり、本市の商業振興と地域活性化を図るため、シピィの永続的な経営を期待しています。

今後も「元気な自立都市 越前」の創造を目指して、「現地現場主義」を motto に、人と人との絆づくりや自然との共生を重視した、安定感と安心感のある市政を築いてまいりますので、武生郷友会の会員の皆様には、引き続き越前市に対して温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。